

国語科学習指導案

日時 平成23年5月27日（金）1校時

対象 3年1組（男子20名 女子19名 計39名）

指導者 教諭 豎山道代

1 単元名 創立60周年を祝う詩を選ぼう

2 単元設定の理由

(1) 教育的意義

現代では、情報機器の多様化や機能性の向上から、時や場所を選ばず、だれとでも情報を伝え合うことができる。しかし、そのすべてが適切な情報交換やコミュニケーションとして行われているわけではないという現状がある。たとえば、インターネット上のメールやブログ等において、見知らぬ人とコミュニケーションを行い、その場面でしか通用しないネット用語で会話のやりとりをする人が増えてきている。そのため、相手や場面に応じた直接的なコミュニケーションを適切に行うことを苦手とする人が増えてきている現状が見られる。これは、中学生も例外ではなく、人との直接的な関わりを適切に行えない生徒が増えてきている。本校においても、自分の思いや考えを積極的に伝え合おうとする生徒が多いものの、その気持ちや考えを正確に伝えようと言葉にこだわって表現することができず、友達との気持ちの行き違いが起こったり、相手に勘違いを与えてしまったりする場合もある。

そこで、本単元では、一つ一つの語句や表現に着目させながら詩を読ませる活動を通して、生徒の「ことばの力」を高めさせることにした。詩とは、一つ一つの語句や表現の中に、作者の思いや意図が凝縮されたものである。読み手はそれらにこだわって読みながら、作者の思いや意図を想像することによって、作品の主題を読み取っていく。このような特性をもつ詩を読み深める活動を通して、生徒は、自分の思いや考えを伝える際に、語句や表現にこだわることの大切さや、そこから想像を広げることのすばらしさに気付くことができるものと考ええる。

また本単元では、「創立60周年を祝う詩を選ぼう」という共通の目的を設定した。目的に合った詩を選び、それらの詩を比較しながら読むことによって、生徒は詩に用いられている語句や表現の特徴に気付きやすくなると考える。

さらに、単元の最後に自分の選んだ詩の批評文を書かせる活動を設定した。そうすることによって、生徒は自分の思いや考えをより明確にし、自覚化することができると思う。また、選んだ詩を推薦するという立場で書かせることによって、自分の思いや考えを支える根拠を複数あげながら、論理的に書かせるようにしたい。

このように、主体的に語句や表現にこだわって詩を読み、生徒同士が思いや考えを交わし合いながら作者の思いや意図を受け止めていく活動を通して、語句や表現を吟味・検証する力を高めるとともに、自分の思いや考えを適切に伝えようとする態度を育成することができるものと考ええる。

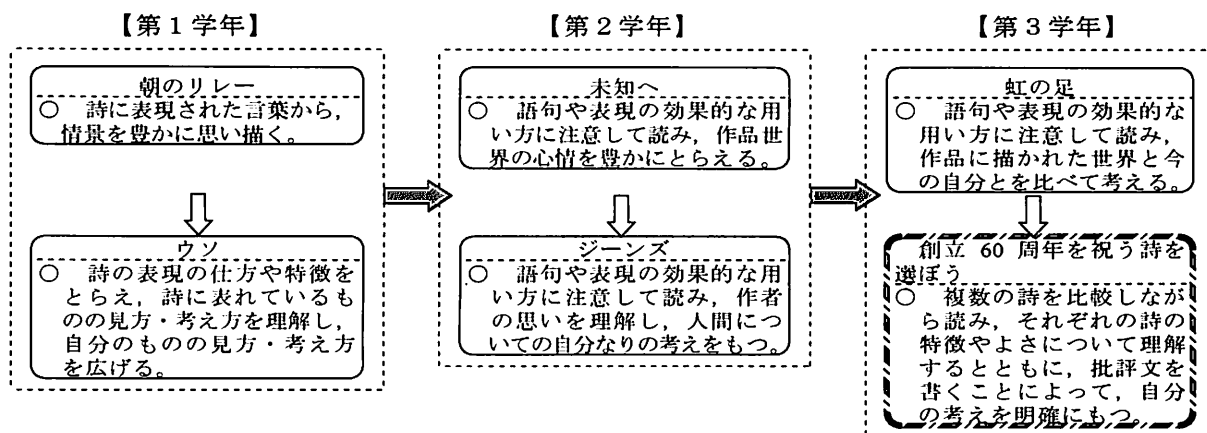
(2) 社会的意義

現代は、情報過多の時代と言われるように、様々な情報機器によって膨大な量の情報が溢れている。そのような社会においてわたしたちは、自分の立場や考え、目的に合わせて情報を収集したり活用したりすることが求められている。

そこで本単元では、多様な詩の中から目的に応じて詩を選んだり、複数の詩を比較したりする活動を設定した。これらの活動を通して、自分の思いや考えを相手に伝えるためには、しっかりと目的意識をもち、語句や表現を選んで適切に伝えることが大切であるということに気付かせることができる。また、複数のものを比較するためには、客観的な視点や吟味・検証するための観点が必要であることを学ばせることができるものとする。

このように、詩の内容を目的に応じて吟味・検証しながら読み取ったり、複数の詩を観点をもちながら客観的に比較させたりすることによって、より深く読み取ることができることに気付かせることができるものとする。

(3) 連関的意義



3 単元の目標及び評価基準

【単元の目標】

- (1) 詩を進んで読み比べたり選んだりする過程で、それぞれの詩のよさや特徴、作者の思いについて積極的に話し合おうとするとともに、思いを込めて朗読しようとすることができる。(国語への関心・意欲・態度)
- (2) 詩を読み比べることによって、それぞれの詩の表現の工夫をとらえながら作者の思いを読み取り、多様で本質的な根拠を基に自分の考えを明確にもち、自分のものの見方や考え方を広げたり深めたりすることができる。(読む能力)
- (3) 創立60周年を祝う気持ちや附属中への自分たちの思いが伝わるように、作品の特徴を生かしながら朗読することができる。(読む能力)
- (4) 自分の選んだ詩の批評文を、その詩のよさが伝わるように根拠を明確にしながらかけることができる。(書く能力)

具体的には次に掲げる内容を重点的に指導する。

評価の観点	評価基準	学習指導要領との関連
国語への関心・意欲・態度	① 目的に応じた詩を選ぶために、作者の思いをとらえながら詩を読もうとしている。 ② 選んだ詩を主体的に読み深めたり、グループや全体での話し合いに積極的に参加したりして、それぞれの詩のよさや特徴、作者の思いを理解しようとしている。 ③ 選んだ詩に描かれた情景や思いが伝わるように、読み方を工夫して音読している。	
書く能力	④ 自分の選んだ詩のよさが伝わるように、根拠を明確にしながらかける批評文を書いている。	イ 記述
読む能力	⑤ 詩における語句の意味や表現技法の効果をとらえ、それぞれの詩のよさや特徴、作者の思いをとらえた上で比較し、自分たちの思いに適した詩について、その根拠を明確にしている。 ⑥ 詩のよさや特徴、作者の思いをとらえ、自分の思いと比較することによって、ものの見方や考え方を広げたり深めたりしている。	ア 語句の意味の理解 ウ 自分の考えの形成

4 単元の指導計画

(1) 単元設定の視点

ア 生徒の実態から

本学級は「読むこと」の学習において、次のような実態が見られる。

- ・ 学習意欲があり、友達と積極的に意見を交わしながら、文学的な文章の内容をより深く読み取ろうとする生徒が多い。
- ・ 説明的な文章について、自分なりに図式化しながら、内容を論理的に理解しようとする生徒が多い。
- ・ 書かれている内容や友達の意見に対して、素直に受け入れるだけでなく、批判的にとらえながら、自分が読み取ったことをより確かで豊かなものとしようとする生徒が増えてきている。
- ・ 自分の意見は明確にもつことができるものの、自分の意見を支える根拠を多様な視点から見出すことができず、確かな根拠をもった意見として相手に伝えることができない生徒が見られる。
- ・ 話し合いをする中で、すぐに友達の意見に流されてしまい、自分の考えを広げたり深めたりすることができない生徒が見られる。

このような実態から、指導に当たっては、複数の詩を比較しながらそれぞれのよさや特徴、作者の思い読み取らせることによって、自分の意見を支えるための根拠を明確にさせたい。自分の意見の根拠が明確になれば、自信をもって話し合いをすることができるものとする。

イ 指導上の手だて（本校の研究内容との関連から）

① 「比較」による思考の広がりや深まりを促す学習活動の工夫

本単元では自分の意見を支える根拠を明確にさせるために、複数の詩を、比較しながら読み深めさせることにした。詩を「比較」することによって、様々な観点をもちながら詩を読み深めることができる。また、表現されたものや表現の仕方の適否、正誤、美醜等について評価しやすくなると考える。つまり、本単元の学習を通して、よりよい表現とはどうあるべきかに気付かせることができ、一つの詩を読むだけでは気付かなかったそれぞれの詩のよさや特徴、表現の工夫、主題などをより深く理解させることができ、生徒の思考を広げたり深めたりすることができるものとする。

具体的にはまず、「創立60周年を祝う詩を選ぼう」という学習目標の下、60周年を祝うために適した詩を根拠を明確にして選ぶという活動を設定した。そうすることによって、活動への意欲付けを図ることができ、情報を目的に応じて取捨選択する力を高めさせることができると考える。次に選んだ詩を吟味・検証し、「どうして創立60周年にふさわしいのか」という根拠を明確にさせることにした。

さらに、以下の二つの活動を設定した。一つ目は、異なる詩を選んだ者同士でグループを作り、相手に自分が選んだ作品のよさを分かってもらい、相手を説得するという立場で意見交換をさせる活動である。相手を説得しなければならないので、生徒は自分が選んだ詩のよさを明確にするために根拠を真剣に探す。そして、「ここにこのような表現があるから、作者はこういうことが言いたいのだと思う。だから、こちらの詩の方がふさわしい。」というように、根拠を基に自分の意見を発表することができ、論理的に相手を説得するように話すことができる。またそのときに、互いの詩を「比較」しながら読ませることによって、読む観点が増え、それぞれの作品のよさや特徴を見付けやすくなる。また、それを基に、自分が気付かなかった観点で、自分が選んだ作品を客観的に吟味・検証することができる。二つ目は、話し合いの結果複数に絞った詩を更に詳しく分析・比較し、自分たちの思いにより適した詩を選ぶ活動である。ここでは、詩の優劣を判断させるのではなく、創立60周年という記念すべき年に3年生として在学している自分たちの思いを伝えるために、「よりふさわしい詩はどれか」という視点から詩を選ばせることにした。

② 「批評」による思考の広がりや深まりを促す学習活動の工夫

これまでも、文章を語句や表現にこだわって読み、作品のよさや主題をとらえる活動を行ってきた。そしてその後に終末の感想を書き、自分が書いた初発の感想とを比べることによって、自分自身の学習の成果やものの見方、考え方の広がりや深まりを確認させてきた。しかし、その書き方は生徒によって様々であった。そこで、読み深めた内容や、作品に出てくる表現の仕方の適否や、正誤、美醜等について評価することができたかどうかを確かめるために、批評文を書かせる活動を行うことにした。そうすることによって、生徒がどのように作品を読み取ったのか、どのような考えをもったのかということを出させることができる。また今回は、自分の選んだ詩を推薦するという立場で書かせることによって、自分の考えを主張するための根拠となる語句や表現を基に、論理的な文章を書かせることができると考える。

(2) 単元の指導計画 (全5時間)

過程	主な学習活動	時間	指導にあたっての手立て	評価
導 入	1 単元の学習目標・学習活動を 確認する。	1	<ul style="list-style-type: none"> 単元の学習目標及び学習活動について確認させることによって、学習への見通しをもたせ、学習意欲を喚起する。 附属中学校の歴史や伝統を概観させることによって、創立60周年を祝おうとする意欲を高めさせる。 	
	2 附属中学校の歴史について概 観する。			
展 開	3 創立60周年に対する自分たち の「思い」について話し合う。	1	<ul style="list-style-type: none"> 10月に創立60周年記念式典が行われることを知らせ、どのような思いで式典を迎えるとよいか考えさせる。 60周年に対する自分たちの思いを的確に表現していると思う詩を、各自1編ずつ選ばせ、自分の考えを明確にさせる。 より客観的な視点から詩を選ばせるために、グループや全体で、それぞれが選んだ詩のよさやその根拠について話し合わせ、より適していると思う詩を複数に絞らせる。 	評価規準 ①⑤ (観察・ ワークシ ート)
	4 いろいろな詩を読み、60周年 を祝おうとする自分たちの思い に適していると思う詩を複数選 ぶ。			
	5 選ばれた詩について、一つ一 つの語句や表現を分析しながら 読み深める。 6 グループでそれぞれの詩のよ さや特徴、作者の思いを比較し、 より適した詩を選ぶ。 7 それぞれのグループで推薦す る詩を発表し合う。			
開	8 クラスで選んだ詩を、学年全 体の場で推薦するための批評文 を書く。	1	<ul style="list-style-type: none"> 自分たちが選んだ詩の妥当性が他のクラスの人に適切に伝わるように、再度個々で詩を分析させ、推薦する根拠を一人一人に明確にもたせる。 「記念式典で朗読する」という場を想定させ、どのように朗読すると、詩に込められた作者の思いやそれを選んだ自分たちの思いが伝わるかを考えさせる。 	評価規準 ③④⑥ (観察・ ワークシ ート)
	9 選んだ詩を朗読するための工 夫点を考える。			
終 末	10 朗読の発表会を行う。 11 学習を振り返り、身に付ける ことができた力を確認する。	1	<ul style="list-style-type: none"> 個人で考えた読み方を基に、グループで朗読するための工夫点を話し合わせ、練習させる。 グループごとに、作者の思いやその詩を選んだ自分たちの思いが伝わるように工夫しながら朗読させ、詩のよさを味わわせる。 学習を終えての感想を、視点を明確にして書かせることによって、どのような力が身に付いたかを実感させる。 	評価規準 ③ (観察・ ノート)

5 本時の指導 (3/5)

(1) 指導目標

四編の詩を、詩における語句の意味や表現技法等の効果に注意しながら読み、それぞれの詩のよさや特徴、作者の思いについて分析し、比較することによって、自分たちの「思い」により適した詩かどうかを判断することができるようにする。

具体的には、主として評価規準⑤に即して、次の「読むこと」に関する能力の育成を目指す。

十分達成されている	詩における語句の意味や表現技法の効果をもとに、根拠を明確にしながら的確にとらえ、それぞれの詩のよさや特徴、作者の思いについて理解を深めた上で比較し、自分たちの思いにより適している詩について、その根拠を明確にしている。
おおむね達成されている	詩における語句の意味や表現技法の効果をとらえ、それぞれの詩のよさや特徴、作者の思いをとらえた上で比較し、自分たちの思いに適した詩について、その根拠を明確にしている。
達成していない生徒への手だて	<ul style="list-style-type: none"> 詩における表現技法やその効果について、再確認させ、作者が、なぜそのような表現の工夫をしたのか考えさせる。 比較のための観点を示し、その観点に従って、それぞれの詩の共通点や相違点に気付かせるようにする。

(2) 目標行動 (G)

四編の詩を比較して、60周年にふさわしいと思う詩について、自分たちの思いを踏まえた上で、例えば次のように発表することができる。

四編の詩は、「生きることのすばらしさ」や「今を大事にすることの大切さ」を訴えているので、どの詩も自分たちの思いをよく表現している詩だと思う。特にAの詩は、余韻が残るように表現を工夫することによって、読者自身に「生きること」を考えさせるという効果がある。また、未来に向けて前進していこうという作者の思いも伝わってくる。Bの詩は、「～のだ」「～しよう」というように断定したり呼びかけたりしているのが、力強さを感じる。CやDの詩は、擬人法を用いたり身近な「幸福」の例を具体的に挙げたりすることによって、親しみやすく、説得力のある詩になっている。このように、それぞれによさがあるが、60周年を一つの節目として、これから更に前進していきたいという自分たちの思いからすると、「ここでちょっと立ち止まって、生きることについて改めて考えた上で再出発してほしい」という作者の思いが伝わってくるAの詩が最もふさわしいと思う。

(3) 下位目標行動

① グループで話し合ったことを基に、60周年を祝うのに最もふさわしいと思う詩について、例えば次のように発表することができる。

- Aがふさわしいと思う。なぜなら、Aの詩は「今」だけでなく「未来」にも目を向けているからだ。
- Bがふさわしいと思う。なぜなら、Bの詩は「～のだ」という語尾が多く使われていて、作者の思いがしっかり伝わってくるからだ。
- Cがふさわしいと思う。なぜなら、Cの詩は、擬人法を用いて、地上にある全てのものに命があることを的確に表現しているからだ。
- Dの詩がふさわしいと思う。なぜなら、Dの詩は、「生きるすばらしさ」を、具体的な幸福の例をいくつも挙げることによって強調しているからだ。

② グループで推薦する詩の一つを選び、その根拠をまとめることができる。

③ 個々が分析した内容を基に、それぞれの詩のよさや特徴、作者の思いを比較し、「60周年にふさわしいかどうか」という視点から四編の詩を見直すことができる。

④ グループ内で、自分が分析した詩のよさや特徴、作者の思いを発表することができる。

⑤ 分析したことを基に、その詩のよさや特徴、作者の思いをワークシートにまとめることができる。

⑥ 自分が担当する詩を決め、語句の使い方や表現技法の優れているところに線を引いたり、その効果について分析したりすることができる。

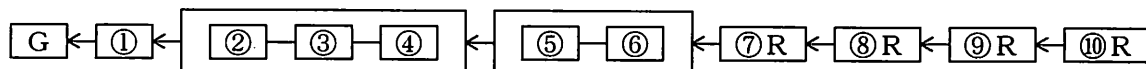
⑦ R 詩を選ぶ際に大事にしたい自分たちの「思い」と、詩における表現技法や分析の仕方について確認することができる。

⑧ R 本時は、四編の詩を「表現の工夫」と「内容（作者が伝えたかったこと）」の両面から分析して、創立60周年によりふさわしい詩を選ぶ学習であることを確認することができる。

⑨ R 本時の学習目標を「附属中学校創立60周年を祝うという、『自分たちの思い』に最も適した詩を選ぼう。」であると確認することができる。

⑩ R 四編の詩を音読し、それぞれの詩のもつリズムをつかむことができる。

(4) 目標関連図



(5) 本時の実際

時間	学 習 過 程	指 導 ・ 援 助 の 留 意 点	研究との関連
5'	<p>スタート</p> <p>四編の詩を音読し、本時の学習目標を確認する。</p> <p>1</p> <p>(10R, 9R)</p>	<p><導 入></p> <ul style="list-style-type: none"> 本時は、前時に選んだ詩の中から、自分たちの思いに最も適した詩を選ぶ学習であることを確認させ、学習意欲を高めさせる。 <p><学習目標></p> <p>附属中学校創立60周年を祝うという、「自分たちの思い」に最も適した詩を選ぼう。</p>	
5'	<p>詩の分析の仕方 や選ぶ視点等について確認する。</p> <p>2</p> <p>(8R, 7R)</p>	<ul style="list-style-type: none"> 「虹の足」で学習した表現上の工夫や作者の思いを想起させることによって、一つ一つの語句にこだわって分析することを確認させる。 創立60周年に対する自分たちの思いを確認させ、その思いに適した詩を選ぶことを理解させる。 	<p>① 「比較」による思考の広がりや深まりを促す学習活動の工夫</p>
10'	<p>自分が担当する詩を分析し、よさや特徴等をまとめる。</p> <p>3</p> <p>(6, 5)</p> <p>分析し、まとめることができたか。</p> <p>4</p> <p>No 補説 Yes</p>	<p><展 開></p> <ul style="list-style-type: none"> 自分が担当した詩を分析しながら、他の詩と比較することができるようにするために、一枚のワークシートに四編の詩をまとめておく。 詩のよさや特徴、作者の思いがどの語句から分かるかを明確にさせることによって、より確かに分析させる。 分析した結果を「内容面」と「表現面」に分類しながらまとめさせることによって、その詩のよさや特徴、作者の思いを明確にさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> 語句の用い方や表現技法に着目させ、語句の意味や効果について分析しながら詩を読み深めさせる。
15'	<p>グループで四編の詩のよさ等について話し合い、推薦する詩とその根拠をまとめる。</p> <p>5</p> <p>(4, 3, 2)</p>	<p><達成していない生徒への手だて></p> <ul style="list-style-type: none"> どのような表現技法が使われているかに着目させ、その効果について考えさせる。 詩の中から作者の思いが一番よく伝わってくる語句を指摘させることによって、作者が伝えたいことを考えさせる。 <p><達成している生徒への手だて></p> <ul style="list-style-type: none"> 他の詩についても同じように分析させ、比較させることによって、自分の考えを明確にもたせる。 	<ul style="list-style-type: none"> グループでそれぞれの詩について分析した内容を比較させ、詩のよさや特徴、作者の思いとその根拠について考えを広げたり深めたりさせる。
10'	<p>グループでの話し合いを基に、より適した詩を選ぶ。</p> <p>6</p> <p>(1)</p> <p>選ぶことができたか。</p> <p>7</p> <p>No 補説 Yes</p>	<ul style="list-style-type: none"> 明確な根拠をもって選ばせるために、個々が分析した内容を基に、それぞれの詩のよさや特徴、作者の思い等を比較させる。 他のグループの人に説得力をもった説明ができるようにさせるために、どの語句からどのようなよさや特徴、作者の思いが分かるのかを明確にさせる。 <p>「自分たちの思いを最も的確に表現している詩はどれか」という視点から話し合わせることによって、より適した詩を選ばせる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 自分たちの思いとその詩の作者の思いを比較させることによって、より適した詩を選ぶための根拠を更に明確にもたせる。
5'	<p>学習のまとめをする。</p> <p>8</p> <p>(G)</p> <p>ゴール</p>	<p><達成していない生徒への手だて></p> <ul style="list-style-type: none"> 自分たちの思いと作者の思いを比較させることによって、より近い表現がなされているものに着目させる。 <p><達成している生徒への手だて></p> <ul style="list-style-type: none"> 四編の詩、それぞれのよさを再確認させ、自分の思いを伝えるための語句の用い方や表現の工夫の仕方をまとめさせる。 <p><終 末></p> <ul style="list-style-type: none"> 詩の読み深め方についてまとめさせ、一つ一つの語句にこだわりながら読むことの大切さや比較しながら読むことの効果等に気付かせる。 	